

## 平成28年度市民意見交換会「みんなで考えよう！子育てしやすいまち」

評価・考察

## 1. 目的

近江八幡市子ども・子育て支援事業計画の実施2年度目となることから、改めて事業計画の周知を図ると共に、平成29年度の中間見直しに向けた議論の参考とするため、現在及び今後の子育て支援のあり方について、子育て世帯等の意見を聴取することを目的に実施した。

なお、子ども・子育て支援法第61条第7項に順ずる意見聴取、利用者支援事業の取組みに関連した位置づけとする。

## 2. 開催概要

## (1) 日時

第1回目	11月18日(金) 10:00~11:30 ほんわか金田	参加者：6人 (1グループ)	
第2回目	11月24日(木) 10:00~11:30 八幡子どもセンター	参加者：4人 (1グループ)	
第3回目	12月9日(金) 13:30~15:00 ひまわり館	参加者：8人 (2グループ)	

## (2) 内容

情報提供、望み、関わりの3本の柱を軸に意見交換を行いました。

## ①情報提供(約25分)

子ども・子育て支援制度、子ども・子育て支援事業計画の周知(質疑応答)

## ②望みの抽出(約25分)

「あったらいいな」「こうなったらいいな」のグループワーク

## ③関わりの検討(約35分)

「緊急度・重要度の高低」「私たちが関われること」のグループワーク

### 3. 取り組みの結果

#### (1) 現状に対する評価

グループワークを始める前に、「今、近江八幡市は子育てしやすいまちであるか」という問いに対して、5段階で評価を尋ねました。

結果は、中間点（3点）の評価が最も多く、評価の平均は2.5点となりました。

参加者の「子育てしやすいまち」度合い（5点満点）

1点（2人）、2点（6人）、3点（10人）、4点（1人）、5点（0人）

#### (2) グループワークの結果

次の3本柱にて、3日間、4班で、グループワークを実施しました。

- ・子育て支援に対する望みの抽出「あったらいいな、こんな子育て支援」
- ・緊急度・重要度を検討「その支援がどれくらい必要なのか」
- ・関わりの検討「自分たちが関われることを考えてみる」

その結果、親子目線から次の施策を望む一方、ママたちが他世代に対して閉鎖的であることから、丁寧な関わりによって多世代の関係性を構築することが重要であることも議論されました。

特に、今後、望まれる子育て支援として抽出されたもの

- ・十分に遊びきれる公園の設置
- ・あかこんバスを活用した地域交通の充実
- ・医療費助成の充実
- ・公立幼稚園の保育の充実
- ・一時的に預かってもらえる場所の設置

その内、当事者、地域の人材、民間支援が協力して実施できるもの

- ・一緒に遊び、関係性を築ける「ママカフェ」「赤ちゃんカフェ」の実施
- ・ママ友が繋がる掲示板サイトの実施

#### (3) アンケート結果

参加に対する評価では、19人が参加して良かった（95%）と答えています。その理由は、意見を言えたこと（5）、みんなと話せた（4）・出会えた（3）と記載されていることから、グループで意見交換すること自体に対して満足感を得ているものと考えられます。そのことは、意見や想いを出すことができた人が大半（17人）であったことから類推できます。

また、ほぼ全員（18人）が継続した実施を望み、このような取り組みを実施する市に対して、まずは評価をしており、これからの子育て支援に対して期待を寄せる結果となっています。

1. 参加して良かったか。 ①良かった 19人 ②良くなかった 1人
2. 自分の意見を出すことができたか。 ①できた 17人 ②できなかった 0人
3. 継続して実施した方が良いか。 ①良い 18人 ②施策反映がないなら不要 1人

#### 4. 考察と今後の方向性

##### (1) 継続的な開催

グループワークにて「子育て支援に対する望み」を抽出できただけでなく、「近江八幡ならってという支援の特徴がない」、「子どもセンターの事業数が少ない」など現在の取り組みや運用への改善案、他市の優良事例など、当事者目線での率直な意見聴取もできました。

アンケート調査では分かりきれないニーズの把握や、参加者評価も高いことから、子ども・子育て支援事業計画の中間見直しを控えた来年度も継続した実施が望まれます。

なお、「もっと話したい人がいる」「堅苦しい催しだと思っていた」など、周知方法や場の設定に対する意見もあったことから、気軽なイベントとの共催なども望ましいと考えられます。

##### (2) 子育てしやすいまちをめざして

平成 25 年9～10 月に実施した「子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査」では、「近江八幡市は子育てしやすい環境とを感じるか」という問いに対して肯定的な評価をした世帯が半数以上（57.0%）でした。しかし、今回の参加者は「近江八幡市は子育てしやすいまちであるか」という問いに対して、平均が2.5点（5段階評価）であり、若干否定的な評価となりました。

また、先のニーズ調査では世帯の末子年齢で分析したところ、0～1 歳児の評価度が他年齢に比べ低い結果でした。今回の市民意見交換会も、未就園の子どもを持つ親の参加が多く、評価が低い結果となっています。

今後、特に低年齢児の子どもを持つ世帯のニーズを汲み取り、『子育てしやすいまち』とは何かを追求して取り組むことが求められます。

##### (3) 子育て支援に対する望み

先のニーズ調査では、充実が必要なサービスとして、下記の3項目が上位となっていました。今回の市民意見交換会でも、「公園」、「医療費助成」は、特に望まれる支援としてグループワークにて抽出されているため、高いニーズと考えられます。

###### 「子育てしやすいまちづくりのために充実が必要なサービス」 上位3項目

- ・医療費の支援制度の充実（63.5%）
- ・子育てしながら働きやすい職場環境の整備（62.2%）
- ・乳幼児の遊び場（公園や子どもセンターなど）の整備（59.1%）

##### (4) 強みを生かした取り組み

先のニーズ調査では、子どもたちの成長に対して重要な点を、基本的な生活習慣を身につけること（83.9%）、思いやりや善悪の判断などの基本的な倫理観、社会的なマナーなどに関する教育（83.2%）、外遊びや自然とのふれあい（79.7%）が上位3項目となっていました。

今回の市民意見交換会で本市の強みを尋ねたところ、「高齢者の人柄が良い」「見守り隊の皆さんに感謝」「自然が豊か」「医療・教育・商業施設が多い」などが挙がりました。

このような地域の強みとなる資源（施設・人材）を生かして、子どもの成長を地域社会全体で取り組んでいくことが望まれます。